

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 北九州市 】

1 実践テーマ	【 II III IV V 】
2 実施対象者	鷹の巣幼稚園 全クラス 25名 保護者 24名 地域の方 20名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (○) ③ その他 (○) (2) 地域における活動 ① イベント名 (穴生まつり) ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動遊びを通して、体を動かす楽しさや心地よさを感じながら、友達と一緒にチャレンジしようとする実践意欲を養う。 ・ 人との交流を通して、礼儀や共に生きようとする心情を培う。 ・ 地域の伝統音楽、日本や外国文化にふれる体験を通して、様々な文化の理解と多様性を尊重する態度を育成する。
5 取組内容	<p>【たかのすオリンピックタイム①10～12月 ②1月～2月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登園後30分間園庭で毎日継続して取り組むことで、体を動かして遊ぶ心地よさを味わったり、それぞれの動きを楽しんだりした。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <ul style="list-style-type: none"> ① 年長組竹馬挑戦では、目標に向かって最後まであきらめずに取り組む力が養われ、自信につながった。全体的には、体のバランスコントロール、ジャンプ力の調整、体幹鍛錬につながった。 <p>【げんきっこタイム 5月～2月 各学期に1～2回実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体操教室講師矢幡先生より、幼児の発達に応じた運動内容、運動と身に付く力との関係、運動する意味などを、体操指導の中で、教授いただく。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>【年長組 皿倉山登山 10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最後まで頑張って登れるように互いに励まし合って登る。地域の年長者と8合目で落ち合い、自然の秘密を教えていただき山頂まで歩く。山頂では、園の友達に鏡の光を届け、園からも山頂に届き、感動の光交信体験をした。普段できない体験を友達と共に楽しみ互いに励まし最後まで頑張れたことに達成感や充実感を味 

わい、大きな自信となった。年長者との温かいふれあひも楽しんだ。

【年中組 年長者との交流 6月～2月6回】

- ・ 地域の年長者(長生会)の皆さんと、年間6回の交流を行う。
- ・ 年長者との交流を継続的に行うことで、年長者への尊敬の念をもったり、優しさを実感したりして、親しみの気持ちが深まった。



	月 日	ねらい
1	6月19日(火)	○長生会の方を知り、一緒に七夕飾り制作を楽しむ。
2	9月23日(日)	○幼児が運動会で頑張る様子を応援していただく中で、意欲を高めたり、満足感を味わったりする。
3	11月9日(金)	○秋の木の実を使って、長生会の方と一緒に、遊ぶものを作ったり、遊んだりしてふれあうことを楽しむ。
4	12月17日(月)	○凧揚げの仕方を教えていただいたり、一緒に遊んだりしてふれあうことを楽しむ。
5	1月19日(土)	○餅米を蒸したり、餅をついたりする様子を見たり、一緒に餅つきやもち丸め、会食を楽しんだりする。
6	2月19日(火)	○うどんを一緒に作ったり、会食を楽しんだりする。 ○一年間の交流でお世話になったことへの感謝の気持ちをもつ。

【年長組 鷹見楽太鼓体験 5月～2月 計9回】

- ・ 地域の伝統無形文化財『鷹見楽太鼓』を月一回保存会の方から教えていただき、その成果を地域の祭り『穴生まつり』で披露する。太鼓のリズムは難しく、口伝と独自の楽譜で、リズムを口ずさみながら練習し『穴生まつり』(10/8)で太鼓の演奏を行う。堂々と演奏し、達成感や充実感を実感した。「受け継いでいる」という自信になり、地域の方との関わりを深めるふれあひの場となっている。



【芦屋釜の里 お茶体験 10月】

- ・ 『芦屋釜の里』大茶室で、お茶の簡単な作法を教わり、干菓子とお茶をいただいた。事前に園でのお茶体験をしていたことで、さらに興味をもって体験することができた。
- ・ 池の鯉えさやり、茶釜工房・資料室見学、釣鐘叩きなど日本の伝統文化財とふれあう。この体験は保護者にも好評だった。



【おもてなし・マナー教室 12月】

- ・ スターフライヤー勤務の瀧恵子さんに、幼児と保護者を対象に、『おもてなし・マナー教室』を行う。
- ・ 「人」と「心」を大切に「ホスピタリティ」の視点から、事例を基に、「もてなしの心」と「あいさつの大切さ」などを教えていただく。声に出してあいさつをしたり、手話で簡単なあいさつをしたりして、人に対するおもてなしの基本を学んだ。保護者へは、客室乗務員時の経験談や社員教育中のエピソードなどをお話いただき、コミュニケーションの大切さや人への思いやり、相手の立場を深く考えることなどを学ぶよい機会になった。



	<p>【トニー先生の英語体験 1月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各クラス別に楽しい雰囲気の中で、トニー先生から、絵カードを使ったり、歌ったり踊ったりして、楽しみながら英語にふれる体験をすることができた。
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、継続的に運動遊びに取り組むことで、文科省が推進している幼児の体力向上「1日に60分以上の運動を」を達成することができ、運動量も増した。園庭に出て、進んで体を動かして遊ぶ幼児が増え、心の発散にもつながっている。 体操教室講師の指導内容を積極的に保育に取り入れ、幼児の発達に応じた遊びの内容を考え、遊具の有効活用をしたことで、平衡感覚や柔軟性、調整力を養ったり、体幹を鍛えたりして、幼児の心身の発達につながった。 運動遊びや竹馬、山登りなどの、苦手なことやきついと思うことを克服することで、幼児の成長する姿が見られた。 年間を通して、地域の年長者との交流を継続することで、「人とふれあうことが楽しい」と実感し、コミュニケーションの素地を養うことができた。 地域の伝統文化『鷹見楽太鼓』や初めてのお茶体験、英語体験の多様な文化にふれることで、多様な体験の積み重ねによる幼児の豊かな心の育成につなげることができた。保護者からも、喜ばれた。 昨年も実施した「おもてなし・マナー教室」を再度実施することで、親子で「あいさつの大切さ」を意識して実践することが日々の生活の中に浸透してきた。朝は、「語先後礼」を行う親子が増えた。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の目的を全職員で共通理解し、本園の教育目標に向けた日々の保育に効果的につなげていくための内容や手立てを話し合い、実践していった。 2020年東京オリンピックへの思いを感じながら実践を進められるように、運動タイムを『たかのすオリンピックタイム』と名付けて、運動遊びに楽しく取り組めるようにした。 園目標や園環境、これまでの保育実践の積み重ねや地域・近隣の人材・施設を実践に効果的に取り入れるよう工夫した。 本園にとっては、2年目の取組となるので、継続して取り組む内容と新たに取り入れる内容とを考慮して幼児の育ちにつなげるようにした。 幼小の接続を意識した内容を取り入れ、多様な体験の積み重ねと小学校での学びを支える力の育成を目指した。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> この事業の目的達成のための内容を考えて実践したが、幼児の実態や育ちを考えると、オリンピックやパラリンピックの意義や国際理解を深く追求するところまでには至らなかった。 本園教育課程保育内容にいかにか効果的に、また、時期的時間的に有効にこの取組を組み込んでいくとよいかの工夫が必要だった。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は、3年目となるので、今年度の課題を踏まえ、さらに充実・継続し、保育に効果的につなげていく。 今年度実践した英語体験(異文化理解)を自国文化の理解とともに、継続的に取り入れ、国際理解につなげるとともに、幼小接続を意識した取組にする。